

1 研修テーマ

## 「確かな学び」をつくる授業づくり

～かかわり合って学びを深めるための支援のあり方を探る～

2 テーマ設定の理由

(1) 前年度の研修から

当校では、昨年度まで確かな学力の育成を目指し、考えを深め合う授業づくりを進めてきた。その結果、基礎的・基本的な知識・理解・技能の習得は図れてきていると捉える。また、活用を促す課題に出会ったときに、習得した知識、技能を活用して解決しようとする姿も見られるようになった。

そこで、かかわり合う中で、互いの考えを交流させ、「確かな学び」を保障することが、「確かな学力」を身につけさせるために今当校が取り組まなければならない授業改善の方向と考えた。

(2) CRT学力テストの結果から

国語、算数とも全国平均を上回り、特に、算数において全国平均を7.1ポイント上回る高い結果であった。また、国語、算数を領域別に見たときに、どの観点も全国平均を超えている。

このことから、基礎的・基本的な知識・理解・技能の習得が図られてきたことが分かる。

これは、職員一丸となって「活用の授業」の在り方を探る中で、課題の提示の工夫やかかわり合う場の設定などに焦点を絞った研修の成果と捉える。また、家庭と連携した家庭学習の習慣化に向けた取組も相互に関連して成果となって表れた結果と捉えている。

(3) 子どもの姿から

漢字や計算の練習を繰り返し行ったり学習したことを復習したりすることを嫌がらず、むしろ進んで行うことができる子どもたちである。そのため、学習したことを確実に定着していくことができ、その積み重ねで基礎的・基本的な知識・理解・技能の習得が図られてきている。

しかし、友だちと考えをすり合わせて、より確かな考えを構築していく力や学習することを楽しみながら意欲的に学習に取り組む力などに弱さが見られる。したがって、どちらかと言うと学習が受動的である。また、子どもたちの中に、先生の言われたことをしっかりと覚えてよい点数を取ればよいという意識が強く根付いている。そのため、友だちといっしょに考え、みんなによりよい考えを導き出すという学習本来の楽しさから遠ざかっている

子どももいる。

CRT学力テストでは、国語も算数も全国平均以上の数値を示しているが、あえて弱い面を示すと、国語では、読む能力と話す・聞く能力であり、算数では、関心・意欲・態度が挙げられる。

つまり、思考・判断にかかわる力に弱さがあり、併せて、友とかかわりあって学びを深めていく力や意欲的に学習に取り組む態度などに弱さがあると捉えることができる。

### 3 「確かな学び」の意味づけ

今年度の校内研修で私たちが学び合う土台を共通にする意味で、「確かな学び」という捉えを下のように考えることとする。

「確かな学び」とは、子ども一人ひとりの個性的で多様な考えや思いが、対象(教材)や人(他者・自己)とかかわり合うことをとおして、より豊かで深い考えや思いへと高まっていくことである。

「より豊かで深い考えや思い」を現時点で次のように考えている。

- ・より客観化された見方や考え方の確立

Ex 誰にでも納得できる認識。より早く、正確にできる方法の選択。  
定義や法則の構築や活用

- ・より多様な見方や考え方の受容

Ex 同じ叙述から感じる見方や考え方を分かり合う。

\*このことについては、上のことをたたき台として、どのようなときに、「より豊かで深い考えや思い」へと高まったかを話し合い、共通理解をより確かにしながら、研修を進めていく。

そして、かかわり合う姿を現時点で次のように考える。

課題解決に向けて子ども同士が、自分の考えや思いを伝え合って、より豊かで深い考えや思いをつくっていく。

上記の姿を実現するために、教師の支援をどのようにしていけばよいのかを研修していく。

なお、教科の特性や学年の実態に合わせた具体的な姿は、学年又は学年部で今年度の研修の中で提案し、授業研修をとおして「確かな学び」が実現した姿やかかわり合う姿を明らかにしていく。

## 4 研修の内容と方法

### (1) 研修内容

対象(教材)や人(他者・自己)と出会い、それらとの対話を通して「確かな学び」が獲得できる授業をつくるために、教師はいかに支援すればよいかを学び合う。そして、その学びを生かして日々の授業改善に努め、「分かる授業づくり」を実現していく。

### (2) 研修内容の具体的な視点

ア 子どもが主体的にかかわり合い、意欲的に確かな学びをつくっていくための教材や課題の内容および提示の工夫

(今年度は、主にこの部分を中心に研修を深める)

イ かかわり合う場の設定と支援の工夫

- ・子どもにとって必要感のある場の設定
- ・ねらいに迫る話し合い活動ができるような支援の工夫

### (3) 研修方法

ア 教科を国語科と算数科に限定して授業実践を行い、一人一人の子どもが「確かな学び」を獲得する授業づくりを行う。

イ 子どもの学ぶ姿を語り合うことを通して、子どもの学び方を学び、支援のあり方を学び合っていく。

ウ 研修授業や協議会などをとおして学んだことを生かし、どの子にも「確かな学び」を保障できるように、日々の授業で「確かな学び」をつくる授業展開を行う。

## 5 研修授業と協議会

### (1) 研修授業

①全体研修会 ……低、中、高学年部 各1回  
(外部指導者を招聘しての研修)

②学年部研修会 ……低、中、高学年部 各1回

\*但し、指導者招聘研修会で授業提案をした学年以外から1名。また、指導者招聘研修会で授業提案をした教科以外を行う。

\*学年部、校長、教頭、研究主任又は研究副主任、参観希望者で研修会に参加する。

\*全体研修会および学年部研修会とも、事前協議および事後の協議会を必ず設ける。そのことで、全体または学年での共通理解を深めていく。

## (2) 協議会について

授業研修における臨床的な検討をとおして、教師も専門職としての学び合いができるようにする。

特に、検討内容は焦点化する。ビデオ記録を併用しながら、「研修内容の具体的な視点」を中心に検討する。

## 6 授業づくりを支える学習環境の整備

### (1) 「確かな学び」を築くためへの配慮

- 環境づくりの重視（しっとりとした教育環境づくり）
  - ・ 子どもを大切にし、工夫された掲示
  - ・ 整理された掲示、子どものがんばりが見られるものを掲示
- 言語環境の整備
  - ・ 子ども同士の言葉遣い
  - ・ 子どもから教師や大人に向ける言葉遣い
  - ・ 教師から子どもへ向ける言葉遣い
  - ・ 声のトーンや響き
- 整理整頓された環境
  - ・ ゆとりの空間がある校内、室内整備

### (2) 基礎的基本的な力の定着を図るためへの配慮

- ワークテストの結果の活用
  - ・ 学校評価の成果の度合いをみる。
  - ・ 定着の弱い学習内容について明らかにし、次学期以降の指導で定着を図る。
- Web 配信システムの活用
  - ・ 県全体との比較から、定着を図る内容を明らかにする。
  - ・ 各担任が自学級、自学年の傾向を見て、落ち込んでいる点について明らかにする。さらに、その結果をもとに、習熟タイムや家庭学習の内容を吟味し、確かな定着を図る取組を行う。
- 個に応じた指導の推進
  - ・ 休み時間を活用し、焦点化した指導を行う。
- 家庭での自学の徹底
  - ・ 繰り返し学習時間の確保
  - ・ 学習習慣の定着